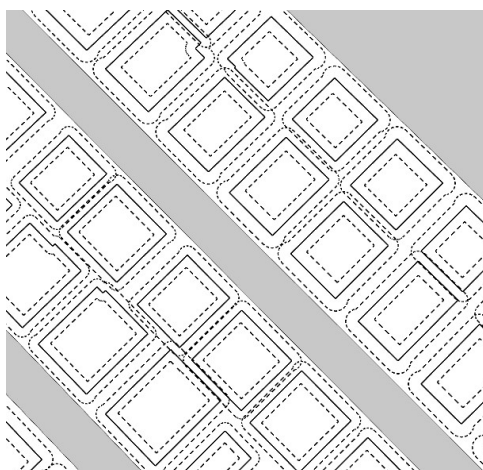


## 進行中の研究

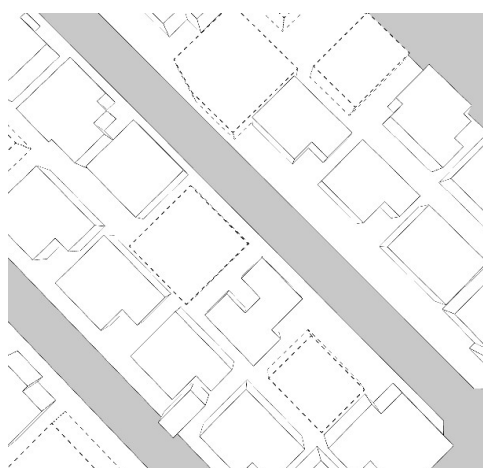
### 基盤地図情報を活用した地区レベルの都市空間要素の配置シミュレーション手法の構築 (2019～)

本研究は「まちなみの予報システム」を目指す技術提案を行うものである。正確な街の姿を描くことを目指すのではなく、あり得る街の姿をたくさん描くことから、将来のまちの姿を不確かなままに示そうとするところに特徴がある。

2021年度までに、市街地の現状の配置における隣棟間隔の分布、道路からの後退距離の分布に基づくランダム配置を行うプログラムを開発した。最終年度の2022年度は同プログラムを、処理能力を高めるため分散処理に対応できるように開発を行っている。(本研究はJSPS 科研費 JP19K04775 の助成を受けている。)



期待建築線図例 (道路からの後退距離、隣棟間隔の期待値 (実線)、標準偏差 (点線) による配置の予報図。 国土地理院の基盤地図情報の建築外周線、道路縁データを基に作成)



隣棟間隔、後退距離の分布に基づく街区内の建物ランダム配置の例 (実線は現状の配置、点線は期待建築線図に基づくランダム配置。国土地理院の基盤地図情報の建築物の外周線、道路縁データを基に作成)

